

患者協働的アプローチによる
薬局利用者から薬剤師への質問促進リストの開発

慶應義塾大学 薬学部 医薬品情報学講座 研究員

はやかわ まさよ
早川 雅代

患者協働的アプローチによる 薬局利用者から薬剤師への質問促進リストの開発

慶應義塾大学薬学部 調査・研究 実施者氏名 早川 雅代

【要旨】

本研究では、薬局利用者と薬剤師とのコミュニケーションを促進するツールとして、「患者から薬剤師への質問リスト (Question Prompt List to Pharmacist: QPLP)」を、修正デルファイ法を用いた患者協働的アプローチにより開発・評価した。「薬について」「薬の飲みかた・使いかたについて」「生活について」「治療について」「健康情報」の5カテゴリーからなる16の質問となった。続いて、その活用可能性を調査した。資料全体として、4割の薬局利用者(患者)および5割の薬剤師から活用への意欲が示され、QPLPは薬局利用者の質問喚起を促す可能性があると考えられた。またQPLPに関するウェブサイトを作成し、さらなる改善と利活用の基盤を構築した。

1、調査・研究目的

薬局において「市販薬、病気や体調について」相談しようと思う人は2割に満たないことが報告されている。¹⁾本研究では、薬局におけるセルフメディケーションの推進のために、薬剤師と薬局利用者のコミュニケーションの促進を目的とした質問促進リストの開発を目指した。

既存の質問促進リストは主に薬の適正使用に焦点を当てており、薬局利用者が質問したい/相談したい内容には必ずしも十分に対応していなかった。そこで我々は、これまでに患者の立場の有識者と協働し、薬剤師への質問促進リスト (Question Prompt List to Pharmacist, QPLP) の作成を進めてきた。QPLPの作成にあたっては、薬剤師資格をもつ医療薬学研究者6名および患者活動の代表経験者2名による議論を通じて、患者が受診前に医師への質問を事前に準備するための質問プロンプトリスト (Question Prompt List, QPL)²⁻⁴⁾を参考に、薬局利用者の視点に立った質問群を作成した。作成に際しては、患者から薬剤師への質問を促進し、不安、希望、自分の思いや興味、日常生活の状況などを伝えることにより、薬剤師との良好なコミュニケーションを生むことを意図した。さらに、患者の包括的な視点を組み込むために、3年以上薬を定期的に使用し、患者活動への参加経験がある8名に対してフォーカスグループインタビューを実施し、その結果を元にQPLP原案(16質問)を作成した。

QPLP原案は、薬に関する事項だけでなく、生活や治療、地域での健康支援など、広範なテーマを含む全16の質問からなり、病気に関する不安や健康情報に対する疑問など、多様な相談

内容に対応する構成となっている。本研究では、① QPLP 原案の評価・改良を経て QPLP を完成させること、② 薬局利用者および薬剤師を対象とした大規模な調査により、QPLP の活用可能性を調査すること、③ QPLP のさらなる改善と利活用の基盤を築くことを目的とした。

2、調査・研究方法

2-1 調査・研究方法概要

QPLP の原案に対して、患者 8 名による修正デルファイ法⁵⁾を用いた評価と意見集約により、QPLP を決定した。次に、QPLP の活用可能性について薬局利用者と薬剤師に調査した。調査はそれぞれインターネットパネル調査 1000 名および 600 薬局への郵送により実施した。さらに、開発した QPLP をウェブサイトにて提供し、改良と普及のサイクル作りに向けて意見を収集する仕組みを構築した。

2-2 QPLP の評価および決定

患者協働的アプローチとして、3 年以上薬を定期的を使用し、患者活動への参加経験があり複数の患者との交流経験を持つ人を修正デルファイ法への参加者として、患者団体のメーリングリストや SNS で広く募集した。先行研究で作成した QPLP 原案 (16 質問) への意見を参加者より収集した。なお、デルファイ法は、専門家の意見収集に用いられ、匿名性を保ち、専門家が自由に意見を表明できることを特徴とする複数のラウンドにより、専門家のコンセンサスが形成できる手法である。本研究では、患者 8 名での 2 回のラウンドをメールにて行った。ラウンド 1 では、原案の各質問に対して薬剤師とのコミュニケーションの向上につながる質問内容として 5 段階 (そう思う～そう思わない) での評価とともに、それぞれを選んだ理由・修正文案などの自由意見を求めた。ラウンド 1 の解析結果を参加者にフィードバックし、ラウンド 2 で再度 5 段階での評価を依頼した。

修正デルファイ法の結果をもとに薬剤師資格をもつ医療薬学研究者 6 名および患者活動の代表経験者 2 名により議論を行い、QPLP を決定した。

2-3 薬局利用者と薬剤師への QPLP の活用可能性調査

2-3-1 インターネットパネルによる薬局利用者への活用可能性調査 (対象 1000 名)

株式会社楽天インサイトのインターネット疾患パネルにて、スクリーニング調査として、「現在定期的に通院し薬を処方されている、20 歳以上である、医療系の資格を持っていない、医療関係の仕事についていない」人を対象として、1000 名にアンケート調査を実施した。調査期間は、2025 年 3 月 24 日から 3 月 26 日とした。対象者に、次の質問を行った。

- ① QPLP の資料を使ってみたいと思いますか [資料 (図 1) を画面に表示]
- ② これまでに 16 問に関する事で、困りごとや疑問がありましたか。(はい、いいえ)

- ③ これまでに16問に関することで、薬剤師に質問をしたことがありますか。(はい、いいえ)
- ④ 必要なときに、薬剤師に16問の質問(相談)をしてみたいと思いますか。
(とてもそう思う ややそう思う どちらともいえない あまりそう思わない 全くそう思わない)

2-3-2 薬局への郵送による薬剤師への活用可能性調査(プレ調査30軒、本調査600軒)

健康サポート薬局に勤務する薬剤師を対象としたアンケート調査を実施した。

プレ調査として、神奈川県ホームページに掲載された「健康サポート薬局一覧」の263軒から薬局名が異なる30軒を無作為に抽出して郵送にて薬局に勤務する薬剤師全員に協力を依頼し、Google Formにて回答を得た。調査期間は、2024年11月26日から2024年12月23日とした。

厚生労働省が運営するサイト「医療情報ネット(ナビイ) 薬局を探す6」に2025年1月29日時点で健康サポート薬局として登録されていた全国の3800軒の薬局の中で、開設者氏名が異なる1539軒から無作為に抽出した600軒に対し、郵送にて調査依頼した。薬局に勤務する薬剤師全員に協力を依頼しGoogle Formにて回答を得た。調査期間は、2025年2月17日から3月31日とし、3月10日にリマインド葉書を郵送した。

- ① QPLPの資料を使ってみたいと思いますか[資料(図1)を郵送時に同封]
- ② これまでに16問に関することで患者さんから質問(相談)を受けたことがありますか?
(はい、いいえ)
- ③ 患者さんから16問に関することで質問(相談)してほしいと思いますか?
(とてもそう思う ややそう思う どちらともいえない あまりそう思わない 全くそう思わない)

2-4 QPLPの更なる改善と利活用の基盤の構築

開発したQPLPをウェブサイト上にて提供するとともに、同サイトにて意見収集する仕組みを構築した。

2-5 倫理指針

本研究は、文部科学省・厚生労働省・経済産業省「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」を遵守し遂行した。研究にあたり、慶應義塾大学薬学部「人を対象とする研究倫理委員会」の承認を得て実施した。

- QPLPの評価(修正デルファイ法)(承認番号:承241111-1)
- 薬局利用者への活用可能性調査(承認番号:承250319-3)
- 薬剤師への活用可能性調査(承認番号:承241111-1)

3、調査・研究成果

3-1 QPLPの評価および決定

修正デルファイ法への参加者は、8名でその内3名が男性であった。年齢は30-70歳台で、平均18.4年間定期的に薬局を使用していた。ラウンド1で原案の16問に3問の追加提案がなされ、ラウンド2では、19問を評価した。「リストに含めない方がよい」と一人でも評価した質問はリストから除外し、それ以外を採用した。「薬を飲み忘れた時はどうしたらいいですか。」という質問はラウンド1で追加提案され、全員一致で追加された。「治療をするうえで、気をつけることはありますか」と「日々を過ごしやすくするために、何か自分でできることはありますか。」という質問については、「治療を続けながら日々を過ごしやすくするために、何かできることはありますか。(たとえば、仕事や趣味もしていきたい)」と一つに統合された。デルファイ法に参加した患者からは「QPLPは、こんなことを薬剤師に相談してもいいんだ、といった気づきにつながる。」との意見があった。意見に基づいて薬剤師資格をもつ医療薬学研究者6名および患者活動の代表経験者2名が議論して質問リストを調整し、QPLPは、「薬について」「薬の飲みかた・使いかたについて」「生活について」「治療について」「健康情報」の5カテゴリーからなる16の質問として完成した。(表1) 質問内容は、薬に関する不安、薬の使いにくさ、治療中の生活の悩み、治療に関する困りごとなどに加え、健康情報の真偽、地域の健康・運動関連情報に関するものであった。

作成したQPLPを実用化するため、趣旨説明書とともに印刷可能な電子媒体(PDF形式)として資料を作成した。(図1)

3-2 薬局利用者と薬剤師へのQPLPの活用可能性調査

3-2-1 インターネットパネルによる薬局利用者への活用可能性調査(対象1000名)

参加者背景は、男性76.9%、平均年齢60.0歳、調剤薬局への訪問頻度1-2ヶ月に1回が70.6%、いつも行く薬局を一つに決めている人が70.4%、かかりつけ薬剤師がいる人は26.5%であった。

QPLPの資料を使ってみたいと思った人(とてもそう思う ややそう思う)は、44.1%であり、リストがあると聞きやすい、聞きたいことを忘れないといった理由をあげていた。どちらともいえないは、37.5%で、聞きたいことがない、必要がないといった理由があがっていた。使ってみたくはない(あまりそう思わない 全くそう思わない)は、18.4%で、「医師に相談するから薬剤師には相談しない」、「面倒だから」といった理由があがっていた。

質問リストの質問別の設問では、これまでに0.5%-18.4%の人でQPLPに関する困りごとや疑問があり、0.3-11.7%の人が薬剤師に質問したことがあった。必要なときに、質問してみたいと回答した人は、8-39.5%であった。質問したい人が30%以上であった項目は、多い順に次の5つの質問であった。「#7 この薬と一緒にサプリメント、健康食品、市販薬を使ってもいいですか。(たとえば、マルチビタミン、栄養ドリンク、青汁)」、「#3 この薬を使うことに不安があります。効き方や副作用などを詳しく教えてくださいませんか。」、「#4 薬を飲み忘れたとき(使い忘れたとき)はどうすればいいですか。」、「#12 病院やクリニックで言われてよく

分からなかったことがあります。ここでお聞きしてもいいですか。」「#1 からだや気持ちに変化を感じています。薬の影響が考えられますか。」

3-2-2 薬局への郵送による薬剤師への活用可能性調査（プレ調査 30 軒、本調査 600 軒）

プレ調査では、30 軒の薬局に調査用紙を郵送し、8 軒（回答率 26.7%）の薬局の薬剤師 18 名から回答を得た。600 軒の薬局に対する調査を行った場合、160 軒程度の薬局の回答が得られる可能性があるかと判断し、本調査を実施した。本調査では、158 薬局（回答率 26.3%）の薬剤師 185 名からの回答を得た。

本調査の回答者は、男性 49.7%、年齢は、30 - 50 歳台が多く、10 年以上の薬剤師歴を持つ人が 83.2%であった。薬局のタイプは、10 店舗までのグループ薬局を持つ薬局が 54.1%で、1 日平均取扱処方箋数が 41-100 枚の薬局が最も多く 58.4%であった。（表 5）

QPLP の資料を使ってみたいと思ったと回答した人（とてもそう思う ややそう思う）は、54.1%であり、「聞きたくても聞けない人にとって役立つ」、「薬局がただの薬をもらう場所ではないことがわかってもらえる」といった理由をあげていた。どちらともいえないは、36.8%で、「患者によって役立つ人と役立つでない人がある」、「対応時間があればよい」といった意見があがった。使ってみたいと思わない（あまりそう思わない 全くそう思わない）は、9.2%で、「時間がとられる」、「高齢者にはこのリストはわからない」といった理由があがっていた。

質問リストの質問別の設問では、薬剤師はほとんどの項目について 8-9 割の人が質問（相談）された経験があり、経験が少なかったのは「#16 この地域（町内会、自治体など）で行われている健康や運動に関する活動やそのグループを教えてくださいか。」37.8%、「#8 治療を続けながら日々を過ごしやすくするために、何かできることはありますか。（たとえば、仕事や趣味もしていきたい）」53.5%、「#10 病気や生活で困っていることを聞ける相談先を教えてくださいか。（たとえば、生活費支援制度、仕事の継続、患者会の紹介）」62.7%であった。また、いずれの質問についても、質問してほしいと思う人が多く 58.4-95.1%であった。

3-3 QPLP の更なる改善と利活用の基盤の構築

開発した QPLP を慶應義塾大学薬学部医薬品情報学講座のウェブサイト上にて提供するとともに、本研究の趣旨や意見の収集窓口を付与したサイトを新設し、利活用と意見収集の仕組みを構築した。（図 2）

4、考察

本研究により、患者参画のもと患者・医療者双方の意見が集約された QPLP が開発された。開発した QPLP は、薬に直結した質問の「薬について」「薬の飲みかた・使いかたについて」に

加えて、既存の質問リストにはみられなかった、生活や普段の健康にもわたる広い相談を意識した「生活について」「治療について」「健康情報」を含む16問の質問リストとなった。資料全体としての活用可能性調査では、4割の薬局利用者（患者）および5割の薬剤師から活用への意欲が示され、活用可能性があると考えられた。

各項目別での活用意欲については、薬局利用者では、多い項目でも4割であったが、薬剤師では9割程度であり、意欲のギャップが見られた。また、「薬について」および「薬の飲みかた・使いかた」カテゴリーの質問への質問意欲がより高い傾向であった。

これは、薬局利用者に薬剤師に薬のこと以外も質問してよいことが認知されていないこと、聞きたくても聞けない薬局の雰囲気など複合的な原因によるものと推察された。

QPLPの資料全体については、患者、薬剤師双方より、文字数が多いといった意見があったこと、またカテゴリー別では、「薬について」「薬の飲みかた・使いかたについて」への活用意欲が高かったことなどを考慮した短縮版の開発の必要性が示唆された。また、忙しい薬局での導入の難しさや薬局利用者（患者）の状態により、すべての薬局や薬局利用者（患者）での活用を進めるべきものではなく、対象を絞って活用されることが良いと考えられ、活用場面を想定した普及方法の検討の必要性も示唆された。

QPLPの活用により、薬局において以下のような効果が期待される。薬局や薬剤師にとっては、会話を拒んでいた患者との対話のきっかけとなるなど、「患者との信頼関係の構築」が促されるほか、服薬指導の際に確認すべき事項や副作用の兆候を把握しやすくなることによる「患者の状態の把握」、生活に即した薬の使い方について相談を受けることでの「患者のアドヒアランス向上」、さらには「残薬調整やポリファーマシーの解消」、医師との連携や信頼関係の構築、医療情報の共有の充実による「多職種連携の促進」などが挙げられる。

一方、薬局利用者（患者）にとっては、「薬局に入りやすくなる」「薬剤師に質問してもよいことがわかる」「言い出しにくかったことを気軽に話せる」「他の医療者との橋渡しをしてもらえる」「どこに相談してよいか分からなかったことへの糸口が見つかる」などの点から、「薬剤師への相談のしやすさ」が高まることが期待される。また、「健康情報について専門家から意見を聞ける」「地域の健康イベント等に参加しやすくなる」といった「健康関連情報の入手」、さらに、健康や治療に関する理解が深まり、それに基づいた行動変容が促されることによる「ヘルスリテラシーの向上」なども期待される。

このように、薬剤師と患者双方にとっての多面的な効果を通じて、両者間のコミュニケーションの質の向上が見込まれる。本研究の成果は、これまで主に医師との対話支援に用いられてきた質問促進リストが、薬剤師とのコミュニケーションにも有用である可能性を示しており、今後の研究や実践に向けた新たな視座を提供するものである。今後はさらに多様な意見を収集し、QPLPの改良を進めるとともに、本ツールが患者と薬剤師のコミュニケーション向上に実際に寄与するかどうかを検証していく必要がある。

5、まとめ

本研究により、患者参画のもと意見集約された「薬について」「薬の飲みかた・使いかたについて」「生活について」「治療について」「健康情報」の5カテゴリーからなる16の質問のQPLPを開発した。活用可能性調査では、4割の薬局利用者（患者）および5割の薬剤師より使ってみたいとの回答を得た。さらに、QPLPに関するウェブサイトを作成し、改良と普及のサイクル作りに向けて意見を収集する仕組みを構築した。今後、QPLPにより薬剤師と地域の生活者とのコミュニケーションが促進され、薬剤師が、身近な健康に関する相談相手であるという認識が醸成され、両者の相互理解と信頼関係の構築に資することが期待される。

6、調査・研究発表

早川 雅代, 木崎 速人, 柳澤 友希, 鈴木 信行, 香川 由美, 佐山杏子, 今井 俊吾, 堀 里子. 薬局利用者から薬剤師への質問促進リスト (QPLP) の開発: 患者対象フォーカスグループインタビューと修正デルファイ法による検討. 第34回日本医療薬学会年会. 2024.11.4. 千葉

早川 雅代, 柳澤 友希, 木崎 速人, 鈴木 信行, 香川 由美, 佐山杏子, 今井 俊吾, 堀 里子. 薬局での患者-薬剤師間コミュニケーションの阻害要因 患者の語りから. ヘルスコミュニケーションウィーク 2024 in Yokohama 2024.9.28. 横浜

7、引用文献

- 1) 内閣府, 薬局の利用に関する世論調査 (令和2年10月調査)
<https://survey.gov-online.go.jp/r02/r02-yakkyoku/> (参照 2025/4/16)
- 2) Agency for Healthcare Research and Quality. QuestionBuilder App. An official website of the Department of Health and Human Services. reviewed June 2022.
<https://www.ahrq.gov/questions/question-builder/index.html>, (参照 2025/4/16)
- 3) Healthdirect. Question Builder. healthdirect.
<https://www.healthdirect.gov.au/question-builder>, (参照 2025/4/16)
- 4) 国立がん研究センター 精神腫瘍学グループ. 重要な面談にのぞまれる患者さんご家族へー聞きたいことをきちんと聞くためにー. 国立がん研究センターがん情報サービス.
https://www.ncc.go.jp/jp/ncc/clinic/psychiatry/psychiatry_panfu.pdf, (参照 2025/4/16)
- 5) Kathryn F, Steven J, Bernstein, Maria D, Bernard B, Juan R, Pablo L, et al. The RAND/UCLA Appropriateness Method User's Manual [Internet]. RAND; 2001.
https://www.rand.org/pubs/monograph_reports/MR1269.html, (参照 2025/4/16)

6) 厚生労働省 . 医療情報ネット (ナビイ) 薬局を探す.


<https://www.iryuu.teikyouseido.mhlw.go.jp/znk-web/juminkanja/S2300/initializ>,

(参照 2025/4/16)

表1 開発した QPLP

薬局利用者から薬剤師への質問リスト：QPLP
<p><薬について></p> <p>#1 からだや気持ちに変化を感じています。薬の影響が考えられますか。</p> <p>#2 使っていない薬が余っています。どうすればいいですか。</p> <p>#3 この薬を使うことに不安があります。効き方や副作用などを詳しく教えてくださいか。</p> <p><薬の飲みかた/使いかた></p> <p>#4 薬を飲み忘れたとき (使い忘れたとき) はどうすればいいですか。</p> <p>#5 薬が飲みにくい (使いにくい) です。何かいい方法はありますか。</p> <p>#6 薬を飲む (使う) タイミングを守るのが難しいです。どうすればいいですか。 (たとえば、夜勤や外出が多いなど)</p> <p>#7 この薬と一緒にサプリメント、健康食品、市販薬を使ってもいいですか。 (たとえば、マルチビタミン、栄養ドリンク、青汁)</p> <p><生活></p> <p>#8 治療を続けながら日々を過ごしやすくするために、何かできることはありますか。 (たとえば、仕事や趣味もしていきたい)</p> <p>#9 病気にもなう心配ごとについて相談できますか。 (たとえば、不安で眠れない、気分が落ち込む、家族への説明の仕方)</p> <p>#10 病気や生活で困っていることを聞ける相談先を教えてくださいか。 (たとえば、生活費支援制度、仕事の継続、患者会の紹介)</p> <p><治療></p> <p>#11 検査データを一緒に見てもらえませんか。 (たとえば、気になる検査値や検査項目など)</p> <p>#12 病院やクリニックで言われてよく分からなかったことがあります。ここでお聞きしてもいいですか。</p> <p>#13 医師に相談したいことがあります。どう言えば伝わりやすいですか。 (たとえば、治療方針、副作用での困りごと)</p> <p>#14 他の病院でも私の病気の治療を受けられますか。</p> <p><健康情報></p> <p>#15 気になっている健康情報があります。お聞きしてもいいですか。 (たとえば、新聞広告やウェブサイトにある健康法や治療法)</p> <p>#16 この地域 (町内会、自治体など) で行われている健康や運動に関する活動やそのグループを教えてくださいか。</p>

質問リストを使って 薬剤師と話そう！




**あなたの生活にそったお薬の飲みかたを
薬剤師と一緒に考えていきましょう**

あなたにとって大切なことや病気に関する情報を薬剤師にお伝えいただくことで、ご自分の生活にそったお薬の飲みかた / 使いかたの工夫などをご提案できるかもしれません

**お薬や治療についての不安やお悩みについて
もご相談ください**


すぐに答えられないこともあります。情報の信頼性を一緒に確認したり、適切な他の相談窓口をご紹介しますりするサポートをさせていただきます



質問リストの中で、気になる項目にチェックして薬剤師にお見せください
その後、お持ち帰りいただき、心配なことがあったら、いつでも薬局に来てください

※この質問リストは、薬局を利用する人から薬剤師への質問リスト（Question Prompt List to Pharmacist）として、患者と薬剤師、研究者がともに考え作成したものです。

© 2015 慶応義塾大学薬学部医薬品情報科学講座



**薬局を利用する人から
薬剤師への質問リスト**

薬の飲みかた / 使いかた

- 薬を飲み忘れたとき（使い忘れたとき）はどうすればいいですか。
- 薬が飲みにくい（使いにくい）です。何かいい方法はありませんか。
- 薬を飲む（使う）タイミングを守るのが難しいです。どうすればいいですか。（たとえば、夜勤や外出が多いなど）
- この薬と一緒にサプリメント、健康食品、市販薬を使ってもいいですか。（たとえば、マルチビタミン、栄養ドリンク、青汁）

薬について

- からだや気持ちに変化を感じています。薬の影響が考えられますか。
- 使っていない薬が余っています。どうすればいいですか。
- この薬を使うことに不安があります。効き方や副作用などを詳しく教えてくださいませんか。

生活

- 治療を続けながら日々を過ごしやすいするために、何かできることはありますか。（たとえば、仕事や趣味もしていきたい）
- 病気にもなう心配ごとについて相談できますか。（たとえば、不安で寝れない、気分が落ち込む、家族への説明の仕方）
- 病気や生活で困っていることを聞ける相談先を教えてくださいませんか。（たとえば、生活費支援制度、仕事の継続、患者会の紹介）

治療

- 検査データと一緒に見てもらえませんか。（たとえば、気になる検査値や検査項目など）
- 病院やクリニックで言われてよく分からなかったことがあります。ここで聞きしてもいいですか。
- 医師に相談したいことがあります。どう言えば伝わりやすいですか。（たとえば、治療方針、副作用での困りごと）
- 他の病院でも私の病気の治療を受けられますか。

健康情報

- 気になっている健康情報があります。お聞きしてもいいですか。（たとえば、新聞広告やウェブサイトにある健康法や治療法）
- この地域（町内会、自治体など）で行われている健康や運動に関する活動やそのグループを教えてくださいませんか。

© 2025 慶応義塾大学薬学部医薬品情報科学講座

図1 作成した QPLP の資料

薬局を利用する人から薬剤師への質問リスト (Question Prompt List to Pharmacist ; QPLP) の開発



ABOUT

薬剤師には、薬や健康のことを相談できる身近な存在としての役割が期待されています。そのため、薬局利用者との円滑なコミュニケーションが望まれています。しかし、薬局で作薬薬や調剤について相談することを考える人は、2割未満という報告があります(令和2年度世帯調査)。これまで国内外で薬師 患者のための質問促進リスト(Question Prompt List ; QPL)が開発されてきましたが、患者が質問や相談したいことについての薬剤師向けの質問リストは存在しませんでした。

CURRENT RESEARCH

私たちは、患者活動への参加経験がある患者に参加いただき、薬局での薬剤師と利用者のコミュニケーションを促進するための質問リスト【薬剤師への質問促進リスト(Question Prompt List to Pharmacist ; QPLP)】を開発しました。現在の質問リストは、薬だけでなく、「薬について」「薬の飲みかた(使いかた)」「生活」「治療」「健康情報」の5つのカテゴリからなる16の質問から成り立っています。質問内容は、薬に関する不安、薬の使いかた、治療中の生活の悩み、治療に関する思いごとに加え、健康情報の真偽、地域の健康・運動関連情報に関するものです。



QPLP

QPLPの内容(質問リスト)は以下に掲載しています。画像をクリックしてPDFファイルをダウンロードしてください(2ページ)。(2025.1.6更新)



本質問リストをご活用いただく際には、ご一報ください。また、ご意見もお寄せください。これから、さらに多くの患者と薬剤師の方々と協力し、患者の視点からのQPLPを完成させ、評価と改善を行い、QPLPの有効活用の基盤を築くことを目指しています。

ACHIEVEMENT

Publications

- 早川聖代, 木崎遼人, 柳澤友希, 鈴木信行, 香川由美, 佐山香子, 今井俊吾, 堀 里子. 薬局利用者から薬剤師への質問促進リスト(QPLP)の開発: 患者対象フォーカスグループインタビューと修正デルファイ法による検討. 第34回日本臨床薬学会. 2024.11.4.千葉
- 早川聖代, 柳澤友希, 木崎遼人, 鈴木信行, 香川由美, 佐山香子, 今井俊吾, 堀 里子. 薬局での患者-薬剤師間コミュニケーションの阻害要因 患者の側から. ヘルスコミュニケーションワーク2024 in Yokohama 2024.9.28.横浜

図2 QPLPを紹介し、ご意見などを収集するウェブサイト
<https://keio-di.jp/project/post-2042/>